

“ゲーム脳の恐怖”～アウトメディアを～

校長 柏木 博之

本校は月1回，家庭でのアウトメディアに取り組んでいます。一日全くテレビを見ず・パソコン・ゲームをしない“ウサギさんコース”から，ヒヨコさん・かめさんコースまで，各家庭で3段階の中から選び，家族全員で取り組んでいます。やってみると大人が結構メディアに依存していて，我慢するのがたいへんなときがあります。本校ではさらに昨年12月の第1回学校保健委員会は「ケータイ安全教室」を実施し，2月の第2回学校保健委員会では「メディアが脳に与える影響」についてみんなで学びました。このように，メディアに関することに保護者ととも教師も学び，子供たちに指導しています。



寒風の中，椿は元気にきれいな花を咲かせていました。

このように，テレビ・パソコン・ゲーム・ケータイを悪玉扱いするのはなぜでしょうか？小児科医や脳科学者がその答えを教えてください。

メディアの視覚情報は脳の一部（後頭葉・前頭葉運動野）しか活性化しない

↓

脳は活性化していないところを使わない習性があり，その部分が萎縮する

↓

前頭前野の機能低下と人間が本来持っている感覚が退化する

子供たちの脳は全体的に鍛える必要がありますが，教師として，特にどこを意識するかというと，前頭前野（前頭連合野ともいう）です。ここは，人間らしい理性や意志・意欲を司っています。19世紀，線路工事の現場監督をしていたフィネアス・ゲージというアメリカ人がいました。「バランスの取れた心を持ち，仕事を極めて精神的かつ粘り強くこなす，頭の切れる男」と友人にいられていました。ある日，彼は工事用のダイナマイトが誤爆し，鉄の棒が彼の頭蓋骨を突き破り，前頭前野を貫通するという事故に見舞われました。幸い命はとりとめ，外見は良くなりました。しかし，彼は短気でおこりっぽく，頑固で移り気な人間になってしまいました。彼の友人は「彼はもはや，ゲージではない」というようになりました。この例は，前頭前野の大切さを物語っています。

長時間のゲームにより前頭前野の働きが低下することを明らかにした『ゲーム脳の恐怖』（森昭雄著）という本が平成14年出版されました。いろいろな批判もされましたが，近年最先端の機器により，森先生の研究が裏付けされてきています。隣の韓国・中国は，日本よりゲームに依存している人の割合が多いです。研究も盛んです。ゲーム依存者の脳画像は，ゲーム依存によって前頭前野の活動性が正常者と比べて恐ろしいほど低下して，前頭前野の左半球が完全に破壊された状態に等しいことが判明した研究もあります。

「子どもとメディア」の問題に対して，日本小児科医会是指針となる提言をしています。

- 1 2歳までのテレビ・ビデオ視聴は控えましょう。
- 2 授乳中，食事時のテレビ・ビデオの視聴は止めましょう。
- 3 すべてのメディアへ接触する総時間を制限することが重要です。1日2時間までを目安と考えます。テレビゲームは1日30分までを目安と考えます。
- 4 子ども部屋にはテレビ，ビデオ，パーソナルコンピューターを置かないようにしましょう。
- 5 保護者と子どもでメディアを上手に利用するルールをつくりましょう。

本校の子供たちのゲーム所持率は75%にもなっています。この数値に危機感を持っています。テレビ・パソコン・ゲーム・ケータイよりも，声を出して本を読む，ラジオを聞く，文字を書く，歩く，そして会話で脳の活性化させていきましょう。

子ども会『たこあげ大会』

2日（土）に，子ども会『たこあげ大会』がありました。今回も昨年引き続き，「冒険ランド」にての実施となりました。今回は，冒険ランドの下猶所長のご支援により「かごしま風の会」の方が講師として3名お越しくださり，よくあがる風の作り方について細かくご指導いただきました。

いろいろと準備をしてくださっていたので，短時間にもかかわらず自分用の凧だけでなく，全員で大凧の色ぬりまで体験するなど多彩な活動ができました。

後半は早速作った凧を冒険ランドの広い敷地でとばしてみました。きちんと教えていただいて作った凧なので，ほとんどの凧がよくあがっていたようでした。時折吹く強風のために凧が壊れてしまったり，糸が切れて飛んでいってしまったりした子もいましたが，とても楽しく活動できて満足した様子でした。

翌日3日（日）は作った大凧をみんなで港であげてみました。硫黄島にはめずらしくほとんど完全な無風状態で，大凧はなかなかあがりませんでした。それでも子どもたちは写真のように元気よく走り回り，凧を大空に舞い上がらせた。

硫黄島の全景とメンドンが描かれた大凧が晴天の空に舞う姿はまさに壮観そのものでした。

子どもたちに凧の作り方を詳しく教えてくださった「かごしま風の会」の皆様方，そして，このような場を提供してくださった冒険ランドの下猶所長にこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。



エイズ教育

7日（木），小学5・6年生を対象に蕪園養護教諭が保健の授業を行いました。内容は「病気の人への思いやり」の気持ちについての学習で，エイズにかかっている人に対する理解をすすめる，偏見や差別をなくし，接し方について考えさせることが主な目的でした。

子どもたちは「エイズのことを心配に思う人がいたら，説明して安心させてあげたい。」「エイズのことを知って，こわくないと分かった。」「他の人と同じように接したい。」「やさしくしたい。」等という感想を持ったようでした。保健や人権に対する認識がさらに深まってきたものと思います。



学校保健委員会開催

1日（金）に，学校保健委員会が開催されました。本年度の反省や“メディアが脳に与える影響”等に関する話し合いがあり，これまでの取組についての振り返りとして，有意義な会となりました。グループ毎の討議もあり，メディアへの接し方についての課題などが出されました。今後の取組についてのよい情報交換の場となりました。

メディアとの接し方について有意義な意見交換ができました。

